第２２回世界スカウトジャンボリー（２２ＷＳＪ）第３回派遣団長会議
概　要　報　告　（案）

(2011.4.16.現在)

期　間： 平成２３年４月１日（金）～３日（日）

場　所： スウェーデン・スコーネ県マルメ　Malmö Slagthus（会場）、Malmö Comfort Hotel（宿泊）

出席者： 中野まり派遣団長（２３ＷＳＪ・ＪＭＴチェアマン）、中野充副派遣団長（２３ＷＳＪ・ＪＭＴ）、出田行徳派遣団本部員（２３ＷＳＪ・ＪＣＴ）、水田派遣団本部員（２３ＷＳＪ・ＪＣＴ）、鈴木武道（２２ＷＳＪプランニングチーム員）、鈴木令子（２２ＷＳＪマネジメントチーム員）、小林事務局次長、佐藤国際部・２３ＷＳＪオフィス部長　高野国際部・２３ＷＳＪオフィス職員、平岡２３ＷＳＪオフィス職員　合計１０人

参加者： ５７カ国１４７人　国名はアルファベット順、（　）内は参加人数

オーストラリア(2)、オーストリア(2)、バングラデシュ(1)、ベルギー(5)、ベニン(1)、ブラジル(1)、カナダ(3)、コロンビア(1)、コンゴ共和国(1)、コスタリカ(1)、キプロス(2)、チェコ(2)、デンマーク(1)、フィンランド(3)、フランス(4)、ガンビア(3)、ドイツ(6)、ギリシャ(1)、中国(香港)(2)、ハンガリー(2)、アイスランド(1)、アイルランド(3)、イスラエル(2)、イタリア(5)、日本(10)、韓国(3)、クウェート(2)、リヒテンシュタイン(2)、ルクセンブルグ(1)、マレーシア(1)、マルタ(2)、ノルウェー(2)、パキスタン(5)、ポーランド(2)、ポルトガル(3)、サウジアラビア(6)、シンガポール(2)、スロバキア(1)、スロベニア(2)、南アフリカ(1)、スペイン(1)、スリランカ(1)、スーダン(3)、スリナメ(1)、スワジランド(1)、スウェーデン(9)、スイス(7)、タンザニア(1)、オランダ(3)、チュニジア(1)、トルコ(5)、イギリス(10)、アメリカ(4)

これに、スウェーデン連盟等の２２ＷＳＪチーム、世界スカウト委員、世界スカウト事務局、合計約５０人が加わり、合計約２００人の会議となった。

概　要：

今回は、第２２回世界スカウトジャンボリー（２２ＷＳＪ）前に開催される３回の派遣団長会議のうち、最後の会議となり、これまでで最大の５７カ国連盟１４７人の参加があった。会場視察は、これまで２回の派遣団長会議が２２ＷＳＪ会場で開催されたことから、今回は事前申込者を対象に会議前の４月１日に行われ、２６カ国から５６人が参加した。

会議では、これまでの準備状況が共有され、各国派遣団との質疑応答が行われた。大会まで４カ月を切った段階で、各国派遣団からの質問あるいは要望に対して今後の調整が多く残されていた。スウェーデン連盟としては、各国からの参加申込み人数が明らかになったことから、参加規模に合わせた準備を進めているところであった。

最後の派遣団長会議としては、各国派遣団が最終的な準備を進めるための情報にまだ不足があり、会議で共有されなかった情報は、各国派遣団に提供されているホームページ（エクストラネット）により公開されていくとされた。このネットのためか、配布資料は殆どなく、今後ネットを参照するようにとの説明が多かったが、現時点で公開されているのは、プレゼンテーション資料のみである。

今回、日本派遣団から１０人が参加したのは、２２ＷＳＪ日本派遣団の準備と同時に、次のＷＳＪホスト国連盟としての姿勢を示すことと、２３ＷＳＪ派遣団長会議を日本で開催するため、会議運営を参考にすることが目的であった。

１．空港到着から会場までの移動・食事

３月３１日（木）は会場視察を申し込んだ参加者が、コペンハーゲン空港に到着し、２２ＷＳＪのコンティンジェント・サポートチームの出迎えを受け、切符を受け取り、鉄道で約２０分のマルメ中央駅に各自移動した。マルメ中央駅でもコンティンジェント・サポートチームの案内を受け、駅の正面の会議場に隣接するホテルへ移動した。ホテルのロビーで到着手続きが行われた。事前連絡が不充分な参加者は、深夜に到着しても出迎えがなく、自分で空港からホテルまで移動していた。

会場視察を行った参加者に加え、４月１日（金）に到着した参加者の受付が会場にて行われ、ＩＤの配布、コンピューターによる氏名チェックの後、トートバッグに入ったウェルカムキットが手渡された。

会議期間中の食事は、朝食がホテル、昼食と夕食は会議場の建物内で提供された。また午前と午後に各１回「フィカ（ＦＩＫＡ）」と呼ばれる３０分間のリフレッシュ休憩があり、紅茶、コーヒーと菓子が提供された。この休憩時間中に、大会各部署のデスクが置かれ、担当者への質問や調整が出来た。

２．ジャンボリー会場視察（希望者のみ）

第３回派遣団長会議では、ジャンボリー会場視察は、派遣団長会議参加への追加オプションとして４月１日（金）の日中に提供された。視察の内容は、ジャンボリー会場、ジャンボリー会場近くの自然保護施設、クリスチャンスタッド市内の見学と市長を交えた昼食会が含まれた。

派遣団長会議会場のマルメからバスで片道約２時間かけてクリスチャンスタッドにあるジャンボリー会場まで移動した。ジャンボリー会場の外周をバスで回った後、メインゲート付近で集合写真をとり、英語と仏語の２グループに分かれてメインスクエア、サブキャンプ予定地、アダルトサブキャンプを徒歩により１時間かけて視察した。

砂地に草が生えているフィールドのあちらこちらに家畜の糞が見られた。林のような障害物が無いところでは強い風が吹いており、夏の大会本番では、虫と風への対策が必要だと思われる。

日本派遣団からは中野充、水田、鈴木令子、小林、平岡、高野の６人が視察に参加した。

３．開会式

派遣団長会議の開会セレモニーが４月１日の１８時から行われ、会議には５７カ国の参加がされることが伝えられた。進行はニーナ氏とフレドリック氏により行われ、キャンプチーフとなるマリー氏とゴラン氏の歓迎挨拶、クリスチャンスタッド市長からの歓迎の言葉があった。

４．情報提供セッション

（１）輸送について（４月１日 20:30-21:00）

ジミー氏（ウェアハウスブロック長）より、コンテナ輸送についての説明があった。コンテナの中身の積み卸し作業と積み込み作業については、ジャンボリーチームにより行われ、重機による作業のため、パレット毎に分かれている必要がある。コンテナによる木のポール（ジャンボリーから提供）、食べ物の輸送は認められず、コンテナは２０フィートサイズで、サブキャンプへの輸送はパレット毎に対応が可能だが、サブキャンプ名を指定する必要がある。

今回の会議の時点では、サブキャンプの配置は調整中であった。テントが建てられるまでは、降ろされたパレットは屋根のない場所で保管さる。ジャンボリー会場へのコンテナ搬入は、７月４日から２２日の間で、搬出は８月１０日から１７日に行い、派遣団によるコンテナからの積み卸しは、７月２０日から２４日、積み込みは８月８日から９日の間に行わなければならない。派遣団は事前にジャンボリーオフィスに荷物に関する連絡を行う必要がある。

ジェスパー氏（ロジスティック・到着・出発ブロック長）からは、人の輸送に関する説明があった。各国派遣団は、参加者の移動単位となる「トラベルグループ」を参加登録フォームでジャンボリーに登録し、連絡担当の指導者を同時に知らせる必要がある。自己手配の交通の場合、ジャンボリー会場への車両の経路の指定がある。電車での移動の場合、クリスチャンスタード駅からジャンボリー会場までは、臨時列車を出す予定で、同区間のバスによる交通は調整中である。派遣団本部員および指導者対象のジャンボリー会場からクリスチャンスタード駅までの交通は、バスにより提供される予定であるが、容量に限界があり利用者の制限がある。

（２）ＩＳＴ、セーフ・フロム・ハーム、アダルトタウンについて（４月２日 09:15-10:30）

ミッコ氏（アダルトリソース・サービス部門長）とＩＳＴ登録、アダルトサイトチーム、セーフ・フロム・ハームの担当者より、ＩＳＴとアダルトタウンの施設、セーフ・フロム・ハームについての説明があった。

ＩＳＴ登録については、現在配属作業が進められ、誰がどの部署へ配属されるかは、６月初旬に発表がされる予定である。一部の業務にあたるＩＳＴには他のＩＳＴよりも早く入場をしてもらう可能性があり、どのＩＳＴ参加者が該当するかは今後２週間以内に情報が出る予定である。大会中のＩＳＴ業務は班単位で行われ、業務内容による例外を除いて、基本的に１日あたり６時間から８時間の業務時間となる。割り当てられた業務に班内で解決できない不満がある場合は、アダルトサイトのＩＳＴ班サポート部署へ伝えて欲しい。

到着時のＩＳＴトレーニングについては、７月２６日は「イントロプログラム」、２６日から２７日にかけては各部署の専門的なトレーニングが提供される。ＩＳＴ対象のプログラムは「Our World」、「Personal Development」、「Spiritual Experience」、「New Skills」の４つのテーマで行われる。

チャイルド・プロテクション「セーフ・フロム・ハーム」については、ＩＳＴとジャンボリープランニングチームは修了が必須であり、ウェブページでコースが開設されている。修了していないＩＳＴは、大会入場時にチェックされ、入場が拒否される。入場時のコース取得は検討中であるが、事前に確実に修了してから来場して欲しい。各国派遣団へは登録確認ページにより、派遣団の修了者を確認できるようにする。修了の確認は会場で行われるが、万一に備え、各自で修了証を印刷し持参して欲しい。

アダルトタウンについては、大会会場に設置される４つのタウンのうち、「スプリング」がアダルトサイトとなり、１万人人のＩＳＴと派遣団本部員が宿泊や食事で利用する。宿泊エリアは４０人ずつ、５００平方メートルの「キャンプサイト」で区切られる。

食事はダイニングホールで提供され、朝食は５時３０分から９時、昼食は１１時から１４時、夕食は１７時から２２時で１日３回の食事が提供される。業務によってダイニングまで昼食を取りに来られない場合は弁当が提供される。ＩＤとネッカチーフによりダイニングホールの入場の認証が行われる。ダイニングホールには２２カ所のフードステーション（食事提供列）を挟んで２千人に提供可能なテント（１００ｍ×６０ｍ）が２つ設置され、合計４千人が同時に食事をすることができる。２２カ所のフードステーションのうち２カ所で食事制限に対応した特別食が提供される。ダイニングホールは食事時間外ならばミーティングスペースとしても利用可能だが、事前に予約登録が必要である。

また、アダルトタウンには、足風呂、カフェ、ハンモック等のリラックスのできる場所が置かれる。

（３）派遣団本部について（４月２日 10:45-11:30）

ステファン氏（派遣団本部・展示エリア部門長）により、派遣団本部の説明があった。

派遣団本部テントは、今日までに手配依頼があったものについては確保しているが、以降の注文については保証ができない。各国派遣団本部の位置が決定されたので、支障がない限り変更はしない。派遣団本部周辺には、無線ＬＡＮによるインターネットが提供されるが、動画のダウンロードや常時接続が必要な使用は控えて欲しい。２４０Ｖ５０Ｈｚの電源の供給があり、各国派遣団では必要に応じてヨーロッパタイプＦのアダプターと変圧器を準備すると利用できる。電源の使用量には配慮をして欲しい。（目安は１派遣団ＰＣ８台までの計算）　派遣団本部テントは、７月２３日に設置される。

（４）セールスについて（４月２日 11:30-11:45）

セールス部門から、ジャンボリー会場での各種販売とジャンボリーグッズの販売についての説明があった。

メインスクエアに大きなキャンプショップが設置され、約１千５百種類の商品が販売される。この他に１５から２０カ所のおやつなどの食べ物を売るキオスクが設置される。サブキャンプセンターでは、衛生用品やその他の商品を扱うコーナーショップが設置され、７月２７日から８月６日まで１０時から２２時の間営業される。メインスクエアでは、ランドリーサービス、充電サービス、薬局、郵

便ポストなどのサービスが設置される。ジャンボリー会場内ではフードハウス、カフェ、小レストランを含め全部で３０カ所の食事提供場所が設置される。
　キャッシュカード機能のついたＩＤが参加者および隊指導者、ＩＳＴ、派遣団本部員に提供され、会場内での買い物はこのカードにて精算される。カードへの入金は、会場内の専用の機械を使ってクレジットカードやデビッドカードで行われる。ジャンボリー会場以外でも、先にインターネットにより入金、またジャンボリー後に余った金額の返金をできるようにする。
　一部のジャンボリー商品はインターネットにより注文し、会場で受け取りができるようにする。

（５）参加者フードについて（４月２日 11:45-12:15）
　参加者フード部門から、参加者の食事についての説明があった。
　参加者の食事は、マーケット方式で提供され、各参加者が班の食事を、フードカードのポイントを使って「購入」する。フードカードには予め決められたポイントが入っており、参加者はそのポイントをジャンボリー期間中にどの食材にどのように使うかを、各食材のポイントと調理例が掲載されたメニューブックを参照しながら計画する。
　マーケットは毎日７時から１３時、１６時から２０時の間開かれ、提供される食事は７月２７日の昼食から８月７日の昼食までとされている。（スウェーデンの参加者の入場が７月２６日のため、２７日のマーケットは既にこの時間で営業されていると考えられる）　各サブキャンプには冷蔵庫が無いため、キャンプ・イン・キャンプへの移動時以外買いだめはできない。
　各班は、自分達のポイントの残高をいつでも参照できる。残高の使用ペースが異常だと思われる場合、ジャンボリーチームからサブキャンプを通じてアドバイスがされる。ポイントは追加することが出来ないが、食べ盛りの年代を考慮し、十分に設定されているので足りなくなることはない。
　フードカードとメニューブック、材料リストなどの資料は、会場到着時に隊長が自隊の分を受け取る。マーケットではバスケットが支給されないのでバッグなどを自ら用意する必要がある。登録がされていれば、食事制限への特別食の対応を行っている。「フードインスピレーションエリア」が開設され、調理方法やメニューのアドバイスを受けることが出来る。メニューブック、材料リストはエクストラネットにて公開される。

（６）ジャンボリーのチェックインについて（４月２日 13:30-14:15）
　アンダース氏（登録セクション長）から、到着時のチェックインについての説明があった。
　チェックインは、７月２４日の夕方から７月２８日の朝まで会場の近くにあるエアフィールドにチェックインセンターが開設され、そこで行う。参加者に加えＩＳＴや派遣団本部員など全ての入場者の受付がここで行われ、チェックイン時にジャンボリーバッジとＩＤが渡される。トラベルグループの代表者（隊指導者または派遣団本部員）によりグループチェックインが可能である。氏名の確認が行われるがパスポートは必要ない。チェックインの終了後、同じバスに乗って各サイトのバス停車所まで移動する。チェックイン時に問題（参加費の未払いなど）があった場合、トラベルグループのバスは解決するまでチェックインセンターに停められる。

（７）文化フェスティバルについて（４月２日 14:15-14:45）
　ウルリカ氏（文化フェスティバルセクション長）より、文化フェスティバルの説明があった。
　文化フェスティバルは８月４日に開かれる各国の文化紹介の場として、参加者が自国のフィンガーフード（手でつまむおやつなど）の提供、ゲームなどのアクティビティ、ダンスなどのパフォーマンスを披露する。
　この日の９時から１３時まで、キャンプ・イン・キャンプのホストがジャンボリー会場に招待され、デイビジター用のツアーが提供される。この他に世界スカウトセンター、自由時間用の活動、フェイス・アンド・ビリーフのプログラムが提供される。参加者の昼食は１２時から１３時の間で行われる。
　１８時３０分から「カーニバル」が行われ、各参加者はメインステージに進む。２０時からは、アリーナにて特別ショーが行われる。文化フェスティバルで使用する食材については、いくつかに限りジャンボリーチームで手配が可能であり、５月３１日までに申し込む必要がある。食材は派遣団本部テントに届けられる。カーニバルの音楽演奏には各国からの協力が必要で、協力可能な派遣団はジャンボリーチームに知らせる。各ステージでの文化披露も可能だがステージの予約が必要となる。

各国派遣団のスウェーデンとデンマークへの入国時における注意として、動物製品、乳製品は持ち込めない。トラベルグループでまとめて税関を通ること、大量のお土産が問題になる可能性がある。

（８）ジャンボリーフォーラムについて（４月２日 14:45-15:00）

マイケル氏（アドバイザリーボード）より、ジャンボリーフォーラムについての説明があった。

ジャンボリー期間中の６日間、１５時から１８時の間、毎回異なるテーマによりフォーラムが行われる。テーマと基調講演者については各国派遣団から提案が欲しい。フォーラムでは分科会も行われ、それぞれの日に２８０人が参加できる。８月３日は環境変化をテーマとして、ＵＮシミュレーションフォーラムが開催される。各国派遣団はこれに２人の代表を選出する。このフォーラムでは国連の仕組みを知ることができる。

（９）ジャンボリー期間中の日常について（４月２日（土）13:30-17:40）

共有エリア、アリーナイベント、モジュール、サブキャンプ部門より、ジャンボリー期間中のプログラム日程と、参加者に提供されるサービスについての説明があった。

共有エリアについては、２つのサブキャンプごとに１つのサブキャンプセンターが配置され、自由時間用の活動、ステージ、カフェ、コーナーショップ、遺失物取扱所が設置される。タウンごとにタウンセンターが配置され、モニュメント建造、アクティビティ、フレンドシップアワードが行われ、カフェ、ネットカフェ、キオスク、インフォポイント、クイズゾーンが設置される。メインスクウェアでは、郵便、銀行、薬局、展示、メディアセンター、旅行情報、インフォポイント、ジャンボリーショップ、スウェーデンカフェのサービスが置かれる。

アリーナ行事については、アリーナでの３つの全体行事のそれぞれのテーマと次第が発表された。７月２８日の開会式は「Meeting」、８月４日の文化フェスティバルは「Nature」、８月６日の閉会式は「Solidarity」のそれぞれテーマが設定されている。開会式では各国から旗手を１人選出し、ジャンボリーチームに知らせる必要がある。

モジュール・アクティビティについては、スカウトが参加するプログラムのモジュールは「Earth」、「Dream」、「GDV」、「People」、「Quest」の５種類が有り、それぞれにサブキャンプ単位で時間割が組まれている。各モジュールは７月２９日から８月５日までの１０時から１５時の間で行われ、参加者はサブキャンプごとに定められたスケジュールに従い、１日１つのモジュールに参加する。１５時からは自由時間となる。７月３０日の１６時から１８時まで、宗教間儀礼が予定されている。また８月４日は文化フェスティバルデーが行われるため、モジュールプログラムは予定されていない。モジュール内でのチケットの配布は予定されていない。

（１０）オープンファイア（裸火）とガスの使用について（４月２日 16:20-16:50）

ウルフ氏（サブキャンプセクション部門長）より、ジャンボリー期間中に使用できる薪とガスについての説明があった。

調理用に提供されるガスは各班に６ｋｇのガスボンベを各３本が予定されている。希望があれば薪をつかった調理も可能であり、薪用のかまどのキットが各隊に１つ提供される。薪を割るための斧が貸し出し可能である。

サブキャンプセンターでキャンプファイアを行うことができるが、事前に予約が必要となる。

（１１）火の取り扱い規則について（４月２日 16:35-16:50）

アンダース氏（火気・救助・安全部門長）より、火気に関する注意事項が説明された。

スウェーデンの火気の扱いに関する法律に基づいたキャンプサイト設計のための寸法が提示され、使用するガス、釜は互いに４m離れてなくてはならないこと、これら火気は通路から３m離れてなくてはならないこと、生活するテントからは８m離れてなくてはならない。また防火計画（ファイアプロテクションプラン）がエクストラネットに公開される予定である。

（１２）設営の規則について（４月２日 16:50-17:10）

ビルド、デザイン、インフラサイトサービスセクションから、サイトの設営について説明があった。建造物は６ｍの高さを超えてはならない。１人の参加者に対し、直径２０ｃｍ以下、長さが３ｍのポールが１本提供される。ポールとロープがジャンボリー会場内の決められた場所で支給され、余った材料の回収も指定の場所で行われる。

（１３）安全について（４月２日 17:10-17:40）

エリック氏（安全部門長）とソフィア氏（メディカルサービス）から、安全にキャンプを過ごす上での注意の説明があった。

キャンプ中は手洗いと水分補給を心がけること、各隊で応急処置キットを用意すること、各個人で保険に加入すること、各個人が持ち物の管理をすることが求められている。またジャンボリー会場内のヘルスセンターと薬局の設置箇所、関係部署と警備ＩＳＴと応急担当ＩＳＴの配置場所が示された。大会期間中のセーフティチームへの連絡は、ジャンボリーの緊急連絡用電話、無線での呼び出し、ＩＳＴのインフォポイント、サブキャンプセンターを使用する。

（１４）ジャンボリーソングの発表（４月２日 21:00）

派遣団長会議２日目の夕食後、２０時３０分から会場内でコンサートが開かれ、２１時頃に２２ＷＳＪソングの発表があった。このライブ演奏はインターネットでもリアルタイムで公開された。

（１５）キャンプ・イン・キャンプについて（４月３日 **09:30-10:00）**

マグナス氏（キャンプ・イン・キャンプ部門長）から、７月３１日から８月３日に行われるキャンプ・イン・キャンプについての説明があった。

参加者は、ジャンボリー会場からバスで２時間以内にあるキャンプ場に移動し、ホストに迎えられて１泊２日間のキャンプを行う。１カ所のキャンプ地で最大２００人の参加者が宿泊する。参加者のテントはホストによって準備されるが、食事は参加者がジャンボリー会場から食材を持参し、調理は参加者が薪をつかって調理をする。班ごとに分かれての参加となるが、指導者の同伴が必須で、指導者が病気の場合でも代行を都合する必要がある。キャンプ・イン・キャンプのホストは８月４日の文化フェスティバルにジャンボリー会場に招かれる。

（１６）デイビジターについて（４月３日 10**:00-10:20）**

マリア氏（デイビジターセクション長）からデイビジターについての説明があった。

８月４日を除く７月２８日から８月６日までの１０時から１８時まで、１日あたり５，０００人のデイビジターを受け入れる。入場受付は到着センターにて行われ、１６時まで行われる。チケットは１人１５０スウェーデンクローネ、７歳から１７歳は７５スウェーデンクローネで設定される。インターネットによる購入が可能で、売り切れていなければ会場でもチケット購入ができる。入場時には、ジャンボリーマガジン、バッジ、ＩＳＴによるジャンボリー会場内の案内が提供される。ジャンボリー会場までの交通はデイビジターが負担をする。デイビジターのＩＤはない。

（１７）レセプションとゲストについて（４月３日 10**:20-10:35）**

グニラ氏（レセプションエリアブロック長）よりレセプションについての説明があった。

派遣団は、レセプションエリアを利用した派遣団レセプションを、到着日と出発日を除く毎日１５時から１８時の枠で開催が可能である。レセプションの申し込みは５月１日までである。ヨーロッパ内の食品扱いに関する法律が適用され、派遣団はキッチンを使用することはできないが、軽い食事のケータリングサービスも有料で用意している。

ゲストについては、スカウトゲストは最大３日間登録可能であり、登録費用は１泊につき８００スウェーデンクローネで、ＩＤが提供される。登録は５月１日までに行う必要がある。スペシャルゲストについては、人数に上限があるため、派遣団ではなくジャンボリーホストがゲストに対して招待をすることから、派遣団は候補者の申し込みを５月１日までに行う。スカウトゲスト、スペシャルゲストとも８月４日の入場が可能であり、希望があればジャンボリー会場の案内ツアーを提供する。

（１８）フェイス・アンド・ビリーフ（ＦＡＢ）について（4月3日 10**:50-11:00**）

ミーア氏（フェース・アンド・ビリーフセクション）からフェイス・アンド・ビリーフに関しての説明があった。

各参加者には、リフレクションブックレットが配布される。ジャンボリー会場内でフェイス・アンド・ビリーフの関連場所が数カ所設置され、それぞれの場所で参加をすると「Be A Lighthouse Badge」を取得することが出来る。７月３０日の午後に宗教間行事「Be A Lighthouse」が行われ、各宗教による宗教儀礼がこのあとに行われる。

（１９）スペシャルニーズ（特別支援）について（4月3日 11**:00-11:10**）

ウェルフェアブロックの担当者より、ジャンボリーの特別支援についての説明があった。

宿泊場所、トイレ、シャワー等の施設の対応と、ジャンボリー会場外への交通の対応を行っている。ヘルスケアセンターには薬品保管用の冷蔵庫が設置されている。事前登録があれば電源がサブキャンプセンターで提供され、宿泊サイトに必要な場合は連絡が必要となる。モジュールと即興アクティビティのプログラムは全ての参加者が参加できるように設計されている。

（２０）キャンプメディア（4月3日 11**:10-11:30**）

トーマス氏（コミュニケーション部門長）とマティアス氏（メディア・プレスセクション）より、ジャンボリー期間中のメディアについての説明があった。

ジャンボリー期間中は、隔日でジャンボリーマガジンが発行される。ジャンボリーラジオ、ジャンボリーテレビが放送され、リアルタイムでジャンボリーホームページ、フェイスブック、ツイッターにより情報配信がされる。また、メディアセンターがメインスクエアに設置され、派遣団のメディア担当者、ヤングコレスポンデント（スカウト通信員）、ヤングスポークスパーソン（スカウト報道官）、メディア担当ＩＳＴが、ＰＣやプリンター、写真データベースの利用ができる。全ての参加者がメディアセンターの内部の様子を見学できるようオープンに設計される。

（２１）参加者への情報の流れ（4月3日 11**:30-11:50**）

アン・シャルロット氏（サブキャンプ・派遣団サポートセクション）、ニーナ氏（ジャンボリーエグゼクティブチーム）、そしてフレドリック氏（ジャンボリーエグゼクティブチーム）より、ジャンボリー期間中の情報の流れについての説明があった。

参加者は、ハンドブック、インフォメーションセンター、掲示板、隊長会議、ニュースレターを通じて情報を得る。ハンドブックは、参加者用と、隊指導者・ＩＳＴ・派遣団本部を含む指導者用が発行され英語、仏語、スペイン語、ロシア語、アラビア語の何れかがチェックイン時に配布される。

派遣団長と派遣団本部員に対する情報は、派遣団本部エリアのインフォメーションセンター、ピジョンホール、エクストラネット、メンター、派遣団長会議で提供される。派遣団本部エリアのインフォメーションセンターは８時から２０時の間開かれ、個別の質問対応やピジョンホールが設置される。センターは、派遣団長会議に出席できない派遣団に対して直接派遣団に重要な情報を伝えるサービスを提供する。派遣団長会議は7月２６日から7月２７日までの毎朝１０時から１１まで、派遣団本部エリア内のミーティングスペースで行われ、４８時間先の情報提供や、全体での質問が受け付けられる。その日の議事録は１５時までにまとめられ、ビジョンホールとエクストラネットにて英語とフランス語で提供される。その後にスペイン語、ロシア語、アラビア語に翻訳される。

５．閉会のまとめ　（4月3日 12:00-13:00）

全ての情報提供セッションが終わったあと、マリー氏（ジャンボリーエグゼクティブチームのチェアパーソン）からのまとめの挨拶があった。現在、外国からの人数も含めて１２００人のボランティアがジャンボリーに向けて準備を進めていること、ジャンボリーまで残り日数１１４日となり計画段階を終えてこれから実行段階になることが説明され、マリー氏、ラッセン氏、ゴラン氏がジャンボリー期間中のキャンプチーフとなることが発表された。

続いてラッセ氏（ジャンボリーエグゼクティブチームの副チェアマン）から、派遣団サポートチーム、プランニングチーム、世界スカウト委員、出席者へ向けて４つの感謝が表明された。

最後にゴラン氏（エグゼクティブディレクター）から、インターネット技術が進歩し、皆が情報発信

を簡単にできるようになってからの最初のジャンボリーとなることへの期待があること、ジャンボリーに関わった人々には出会いの場として、かけがえのない瞬間を過ごして欲しいことが伝えられた。

６．団長会議期間中の質問事項・調整事項

派遣団長会議期間中のリフレッシュメント休憩会場を囲んで、各部署のテーブルが置かれ、各国派遣団からの個別の質問が受け付けられた。日本派遣団からは以下の調整と質問を行った。

（1）コンテナについて（ジミー・ウェアハウスブロック長）（４月１日 21:00 頃）

派遣団コンテナについての説明セッションで、中身の搬入搬出がパレット単位で行われ、またパレットも設営の完了していないフィールドに保管されることが判ったことから、パレットの搬出搬入をジャンボリーチームに依頼することなく自分たちで行うことが可能かジャンボリー期間中のコンテナの保管状態を確認した。その結果、コンテナはメインスクエアの南に位置する所定の場所に重ねられることなく平らに並べられるとのことが確認できた。日本派遣団からは、内容物のリストを事前にスウェーデン連盟に共有することが必要とのことだった。

（2）事前配置ＩＳＴについて（クナット・ＩＳＴ体験セクション長との調整）（４月２日 10:30 頃）

日本のＩＳＴで特定の部署に配属して欲しいＩＳＴのリストを手渡し調整をお願いした。

（3）日本派遣団参加隊のサブキャンプ配置について
（マリア・サブキャンプウェルフェアブロック・隊配置担当）（４月２日 12:15 頃）

各サブキャンプへの日本派遣団参加隊の配置について、日本派遣団の希望通りに配置を変更してもらうことができた。日本派遣団の希望は、地図上のサブキャンプ配置図が事前に入手できたため、サブキャンプ間の距離が比較的近く、分団内の移動負担を少なくすることを考慮し、ウィンタータウンにＣ・Ｄ分団、サマータウンにはＢ分団と、オータムタウンにＡ分団とする案を作成した。これは、２月２６日開催の隊長会議の資料から、その後の配置図入手に伴い、ウィンタータウンとオータムタウンを入れ替えたものである。

（4）レセプションについて（グニラ・レセプションエリアブロック長との調整）（４月２日 16:00 頃）

日本派遣団のレセプション申し込みは、８月３日１５時から１６時３０分（準備時間を含み１４時から１７時）で受け付けられた。８月４日は全体行事と重なること、８月５日は退場準備が始まることから、実質的に８月３日がレセプションの最終日となる。ケータリングの申し込みを行うが、予算を調整し、追って申し込む旨を伝えた。

（5）参加者の入場について
（リチャード・パーソネルトランスポートセクション長）（４月３日 08:30 頃）

日本派遣団の参加隊の入場について、２２ＷＳＪによる交通手配ではなく、派遣団手配のバスにより、各隊１台ずつで入場することを再確認した。ジャンボリー輸送の場内のスケジュールと合わせる必要が予想されたため、日本派遣団の入場の予定を共有する旨を伝えた。

（6）登録について（アンダース・レジストレーションセクション長とモニカ・アドミニストレーション部門長）（４月３日 10:30 頃）

１月３１日以降の登録変更に、登録料が上乗せで徴収される旨が登録マニュアルに記載されていることについて、実際の徴収の有無を確認した。この記載は、食事制限や特別支援が必要な場合においての直前手配に関するリスク対策であり、４月３０日までに必要な情報を登録できれば、追加費用は徴収されないことが確認された。班を含む参加者の登録変更についても４月末までに行えば問題はないとのことであった。

会場で配布される参加者のＩＤには、識別バーコード、氏名、参加者、ＩＳＴ、派遣団本部（ＣＭＴ）などのカテゴリー、国、所属サブキャンプ、参加隊が記載され、スカウトゲストのＩＤには入場日が印刷される予定で、６月下旬に印刷が開始されるとのことであった。

（７）派遣団本部テントについて（ステファン・派遣団本部・展示エリア部門長）（４月３日 12:30 頃）

ジャンボリーチームから、日本の派遣団本部テントは６ｍ×１５ｍのテントが２張り確保されていて、提供される物品は、椅子２０脚、机１０個であり、各テントには電源１カ所ずつで合計２カ所提供されることが確認された。

テント内部の壁（展示ボード・幕等）は、派遣団が持参する必要があるとのことであった。テント内でプロジェクターを使用する場合は、派遣団でテント内を暗くするための工夫（暗幕など）が必要とのことであった。

７．その他

（１）東北地方太平洋沖地震について（４月２日 13:30-13:40）

３月１１日の東北地方太平洋沖地震による大震災については、今回の会議でも各国派遣団からお見舞いの言葉をいただいたが、４月２日の午後の全体会の前に、中野派遣団長から、日本連盟へ寄せられたお見舞い状や支援の申し出に感謝を申し上げるとともに、日本派遣団関係者にも被災者がいるものの、被害にあった地域のスカウトたちが２２ＷＳＪへの参加を望んでいること、日本派遣団は派遣を中止することなく予定通り１０００人の派遣準備を進めることを日本連盟の姿勢として伝えた。これを受けて各国派遣団からは大きな拍手が送られた。

（２）世界スカウト事務局・世界行事担当者等との打合せについて（４月２日 12:30-13:00）

４月２日の昼食時間に世界スカウト事務局のジョン・ローラ世界行事担当と２３ＷＳＪ中野チェアマン他との打合せが行われ、２２ＷＳＪ前に２３ＷＳＪ会場を視察し、今後の準備について打ち合わせを行いたいとの希望に対し、６月で日程を調整することとした。

その他、派遣団長会議期間中にスウェーデン連盟他、参加各国派遣団との打合せが個別に行われた。

（３）在スウェーデン日本大使館訪問について（４月１日 09:30-11:00）

派遣団長会議直前の４月１日９時３０分から１１時まで、ストックホルムにある在スウェーデン日本国大使館を出田派遣団本部員（長野県連盟理事長）と佐藤国際部・２３ＷＳＪオフィス部長が訪問し、渡邊芳樹在スウェーデン日本国大使に２２ＷＳＪの概要、日本からの１千人規模の派遣、２３ＷＳＪが日本で開催されること等を説明し、協力をお願いした。

（４）在デンマーク日本大使公邸訪問について

派遣団長会議終了後、４月５日１１時３０から１４時３０分までコペンハーゲンにある在デンマーク日本国大使公邸を次の７人が訪問し、佐野利男在デンマーク日本国大使、武田淳史一等書記官、新海英史専門調査員に２２ＷＳＪの概要、日本からの１千人規模の派遣、コペンハーゲンが２２ＷＳＪ指定到着都市で派遣員全員が見学を行うこと、２３ＷＳＪが日本で開催されること等を説明し、協力をお願いした。

訪問者：中野まり派遣団長、出田総務部長、水田プログラム部長、小林事務局次長、佐藤国際部・２３ＷＳＪオフィス部長、平岡２３ＷＳＪオフィス職員、高野国際部・２３ＷＳＪオフィス職員

佐野大使は小学校高学年時代、当時の銚子第２団でスカウト活動を経験されており、日本のスカウト運動に何らかの支援をしたいとのお話をいただいた。大使館からは２２ＷＳＪでの日本文化紹介等に協力を検討していただけるとのことだった。

（大使公邸にて）

（５）日本派遣団利用予定ホテルと見学手配の確認について（４月４日 08:30-19:00）

旅行手配担当の旅行会者スタッフと、日本派遣団が利用を予定しているコペンハーゲンのホテル３カ所、昼食会場、見学予定地を確認し、今後、手配のまとめを調整することとした。

日本派遣団では、今回視察した本部員が出発直前準備訓練の３会場に分かれ、各会場で説明を行うこととした。

（６）在デンマーク日本大使館訪問について（４月５日 10:50-11:30）

４月４日に大使公邸を訪問したが、日本大使館とは離れた場所であることと、大使館が最近引っ越したばかりで地図に出ていないため、出田本部員と高野職員が４月５日の帰国前に場所確認を含めて大使館を訪問した。大使館への順路が派遣団に共有することとした。

大使館では、武田淳史一等書記官、新海英史専門調査員、大城賀子三等書記官が対応いただき、日本派遣団員の万一のパスポート紛失の対応等について相談し、２２ＷＳＪ会場がスウェーデンであること等の対応等にアドバイスをいただいた。合わせて、コペンハーゲン周辺には、森蚤（Skovflaat スコウフロート）が森林や茂みに生息するので注意が必要なこと、コペンハーゲン市内では、すりなどの小犯罪の発生率が高いため荷物に注意すること等の話をいただいた。

以　上